

平成 28 年度 食品の安全性に関する有害化学物質及び 有害微生物のサーベイランス・モニタリング年次計画の実施状況

化学物質サーベイランス

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
重金属等	ヒ素	国内におけるリスク管理措置を検討する際の基礎データを得るため、水田土壌及びそこで生産されるコメ(玄米、同玄米を削って得られる精米)のヒ素含有実態を詳細に把握。	土壌	○	○	
			玄米	○	○	
			精米 (上記玄米を精白したもの)	○	○	
		消費者がコンブを通じてどの程度総ヒ素を摂取するかを推定するため、乾燥コンブ中の総ヒ素濃度を把握するとともに、抽出に使用する水の水質が出汁中の濃度に与える影響を把握。	乾燥コンブ	—	○	・海外で輸出検疫上、海藻中のヒ素やヨウ素が問題となる事例があることも考慮。 ・乾燥コンブ及びそれを用いて抽出した出汁中の総ヒ素、カドミウム、ヨウ素を測定(乾燥コンブ 120 点、出汁の抽出に用いる水:硬度の異なる 4 種類の水)
	鉛	果実缶詰用の缶について事業者による自主的な鉛の低減対策の効果を確認するとともに、リスク管理措置の必要性を検討するため、市場に流通している国産果実缶詰の鉛濃度について最新の含有実態を把握。	果実缶詰	○	○	

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
ダイオキシン類	ダイオキシン類 (コプラナーPCB を 含む)	ダイオキシン対策推進基本指針(平成11年3月 ダイオキシン対策関係閣僚会議決定)に基づ き、水産物中の含有実態を把握。	ベニズワイガニ	○	○	
			ホッケ	○	○	
			ブリ(天然)	○	○	
		畜水産物のダイオキシン類残留の主要な経路 である飼料について、含有実態を把握。	動物性油脂 魚油 魚粉	○	○	

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
か び 毒	タイプB トリコテセン類	DON、NIV については、リスク管理措置の有効性を検証するため、国産麦類における全国的な含有実態及び年次変動を把握。 アセチル体、配糖体については、国産麦類における全国的な含有実態（遊離体とアセチル体や配糖体との比率）及び年次変動を把握し、アセチル体や配糖体を含めたリスク管理措置の必要性を検討。 赤かび病の多発等が予想される場合には、該当地域において通常調査に追加して、緊急対応調査を実施。	小麦 大麦	○	○	・通常調査に加え、赤かび病発生の情報があつた地域を対象に、緊急調査を実施（小麦 38 点、大麦 12 点）。
	タイプA トリコテセン類	国産麦類について、リスク管理措置の必要性を検討するため、全国的な含有実態及び年次変動を把握。 赤かび病の多発等が予想される場合には、該当地域において通常調査に追加して、緊急対応調査を実施。				
	ゼアラレノン	国産麦類について、リスク管理措置の必要性を検討するため、全国的な含有実態及び年次変動を把握。 赤かび病の多発等が予想される場合には、該当地域において通常調査に追加して、緊急対応調査を実施。				

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
かび 毒	総アフラトキシン	国産大麦について、現行のリスク管理措置の有効性や新たなリスク管理措置の必要性を検討するため、全国的な含有実態を把握。	大麦	○	○	・適切なサンプリング法に基づいて採取した試料について調査を実施中（70 点程度）。
	オクラトキシンA					
	ステリグマトシスチン					
	パツリン	国産のりんご果汁について、現行のリスク管理措置の効果を検証するため、最新の含有実態を把握。 大規模な風水害、雹害等により、りんごのかび毒汚染が懸念される場合には、当該地域において緊急調査（追加調査）の実施を検討。	りんご果汁	○	○	
	総アフラトキシン	国産黒糖と輸入黒糖では、原料サトウキビの生産地、品種、栽培形態、黒糖の加工方法が異なる。それらが及ぼす影響について予備的な情報を得るため、輸入黒糖のアフラトキシン濃度を測定。	黒糖	—	○	・アクリルアミド含有実態調査（平成 27 年度）で採取した輸入黒糖試料（12 点）を活用。
自然 毒	ピロリジジナルカ ロイド類	国産農産物について、リスク管理措置の必要性を検討するため、全国的な含有実態を把握。	ふき ふきのとう	○	○	
		国内で販売されている蜂蜜について、リスク管理措置の必要性を検討するため、含有実態を把握。	蜂蜜	○	○	

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
食品製造由来有機汚染物質	アクリルアミド	食品中のアクリルアミドについて低減の取組の効果を確認し、さらなるリスク管理措置を講じる必要があるかを検討するため、国内に流通する主要な加工食品中のアクリルアミドの含有実態を継続して把握。	ポテトスナック	○	○	
			米菓	○	○	
			ビスケット類	○	○	
			乳幼児用穀類加工品	○	○	
			レトルトカレー	○	○	
			レギュラーコーヒー	○	○	
			インスタントコーヒー	○	○	
			ほうじ茶	○	○	
			麦茶	○	○	
	多環芳香族炭化水素類 (PAH)	事業者による自主的な低減対策による効果を検証し、さらなるリスク管理措置を講じる必要があるかを検討するため、国産の削りぶし中の PAH の最新の含有実態を把握。	削りぶし	○	○	
	3-MCPD	アミノ酸液及びアミノ酸液を含むしょうゆ中の 3-MCPD について、事業者による製造方法の改善等による低減対策の徹底についての指導に基づく低減効果を検証するため、最新の含有実態を把握。	アミノ酸液	○	○	
			しょうゆ	○	○	
	3-MCPD 脂肪酸エステル類 (MCPDE)	食品中の MCPDE 及び GE について、現状を把握し、リスク管理措置の必要性を検討するため、最新の含有実態を調査。	食用こめ油	○	○	
	グリシドール脂肪酸エステル類 (GE)			○	○	
	トランス脂肪酸	消費者・食品事業者への情報提供を充実させるため、国内で流通している加工調理食品中のトランス脂肪酸及び飽和脂肪酸の最新の含有実態を把握。	惣菜(揚げ物) 冷凍食品	○	○	

化学物質モニタリング

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
重金属等	ヒ素	飼料中の基準の遵守状況を監視するために含有実態を把握(基準がない飼料についても、リスク管理措置の検討に必要なデータを得るため、含有実態を把握)。結果は、リスク管理措置の見直しに活用。	配合飼料 動物性飼料 乾牧草等	○	○	
	カドミウム	飼料中の基準の遵守状況を監視するために含有実態を把握(基準がない飼料についても、リスク管理措置の検討に必要なデータを得るため、含有実態を把握)。結果は、リスク管理措置の見直しに活用。	配合飼料 動物性飼料 乾牧草等	○	○	
	鉛	飼料中の基準の遵守状況を監視するために含有実態を把握(基準がない飼料についても、リスク管理措置の検討に必要なデータを得るため、含有実態を把握)。結果は、リスク管理措置の見直しに活用。	配合飼料 動物性飼料 乾牧草等	○	○	
	水銀	飼料中の基準の遵守状況を監視するために含有実態を把握(基準がない飼料についても、リスク管理措置の検討に必要なデータを得るため、含有実態を把握)。結果は、リスク管理措置の見直しに活用。	配合飼料 動物性飼料 乾牧草等	○	○	
かび毒	アフラトキシン B ₁	飼料中の基準の遵守状況を監視するために含有実態を把握(基準がない飼料についても、リスク管理措置の検討に必要なデータを得るため、含有実態を把握)。結果は、リスク管理措置の見直しに活用。	配合飼料 とうもろこし その他の飼料用穀類等	○	○	
	デオキシニバレノール	飼料中の基準の遵守状況を監視するために含有実態を把握(基準がない飼料についても、リスク管理措置の検討に必要なデータを得るため、含有実態を把握)。結果は、リスク管理措置の見直しに活用。	配合飼料 飼料用穀類等	○	○	
	ゼアラレノン	飼料中の基準の遵守状況を監視するために含有実態を把握(基準がない飼料についても、リスク管理措置の検討に必要なデータを得るため、含有実態を把握)。結果は、リスク管理措置の見直しに活用。	配合飼料 飼料用穀類等	○	○	

化学物質 その他の調査

危害要因 カテゴリー	危害要因	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	計画	実績	備考
重金属等	ヒ素	精米歩合を変えることによる無機ヒ素低減措置の可能性を検証するため、玄米の精米歩合とヒ素低減効果の関係を確認。	玄米及びその玄米を加工して得られた精米	—	○	・玄米の国際基準値が設定されたことを受け、コメ中無機ヒ素の低減措置を検討する必要。 ・複数の精米歩合で玄米から精米を調製し、それぞれの無機ヒ素濃度を分析。
	鉛	缶詰は賞味期限の長い食品であることから、鉛の含有量を低減した缶を使用した果実缶詰を長期間保管した場合に、内容物への鉛の溶出が継続して抑制されていることを確認。	果実缶詰	○	○	
食品製造由来有機汚染物質	アクリルアミド	米菓中のアクリルアミド低減に有効と考えられる低減対策の効果を検証するため、事業者と連携して、低減技術の導入前後でアクリルアミド濃度がどの程度低減するかを把握。	米菓	○	○	
		かりんとう中のアクリルアミド低減に有効と考えられる低減対策の効果を検証するため、事業者と連携して、低減技術の導入前後でアクリルアミド濃度がどの程度低減するかを把握。	かりんとう	○	○	

微生物サーベイランス

危害要因	調査の趣旨	具体的な調査対象品目	計画	実績	備考
腸管出血性大腸菌	「栽培から出荷までの野菜の衛生管理指針」に収載された衛生管理対策の有効性を検証し、対策の見直しの必要性を検討するため、農産物(果菜類)及び国内のほ場における微生物の最新の汚染実態と、指針に収載された衛生管理対策の実施状況を調査。	トマト	○	○	サルモネラ、リステリア属菌等も調査。
		キュウリ	○	○	
		環境試料(土壌、水等)	○	○	
サルモネラ	農場でのサルモネラ汚染低減に効果的な対策を検討するため、汚染農場と非汚染農場を対象に調査を実施。	糞便(ソックススワブ)	○	○	糞便の採取は、ソックススワブではなく、鶏舎内の床 5 か所から採取する方法に変更。
		環境試料(鶏舎周り土壌、作業着長靴拭き取り等)	○	○	
	H19 年度調査から、農場におけるサルモネラ汚染率が増えていないかどうかを確認し、必要に応じてリスク管理措置を見直すため、採卵鶏農場の全国的なサルモネラ保有状況を把握。また、採卵鶏農場における飼養・衛生管理状況を調査し、サルモネラ汚染との関連性を把握。	糞便	○	○	
		塵埃	○	○	
	もやし生産における衛生管理指針の作成の検討のため、生産施設における微生物の汚染実態を調査。	原料種子、栽培中のもやし、施設の環境試料(水、生産ラインの拭き取り試料など)	—	○	- 平成 29 年度に予定している調査の予備調査。 - もやし生産施設において、原料種子、栽培中のもやし等を対象にサルモネラや指標菌(大腸菌等)について調査。

危害要因	調査の趣旨	具体的な調査対象品目	計画	実績	備考
リステリア・モノサイトジェネス	国内の加工・流通段階における汚染低減対策の必要性の検討に活用するため、国産調理済み食品の汚染実態を調査。	農畜水産物由来の、喫食前に加熱を要さない調理済み食品	○	—	・平成 27 年度の食鳥処理施設における鶏肉、器材を対象とした調査の結果から、汚染源推定のための追加調査を優先して計画。 ・食鳥処理施設での調査に必要な予算が確保できなかったため、平成 28 年度の実施は見合わせて、平成 29 年度に実施。
ノロウイルス	カキのノロウイルス汚染低減対策の検討材料とするため、国内の養殖海域で生産されたカキのノロウイルス保有状況を調査。	カキ	○	○	
	カキのノロウイルス汚染低減に効果的な対策を検討するため、生産現場で自主的に行われている処理の前後のカキのノロウイルス保有状況を把握し、その効果を検証。	カキ	○	○	